

第3章 3 中国社会の変化と北方民族の進出 g. 宋代の文化(2)

④文学…散文中心 [1 蘇軾]、[2 欧陽脩]ら(古文復興の流れ)

[3 宋詞] (歌謡文学)の流行 = 4 _音曲にあわせてうたわれる詩_

⑤美術…[5 院体]画… 6_宮廷画家による写実や装飾性を重視した画風_(→[7 北宋]画)
代表[8 徽宗]「桃鳩図」

[9 文人]画…士大夫らの水墨画 主観的・理想主義的(→[10 南宋]画)

⑥宗教

仏教…[11 禅]宗=士大夫層中心に広がる、[12 浄土]宗=庶民へ広がる

道教の革新→[13 全真教]成立(金)=儒、仏、道の融合

宋の文化は、前代の唐の文化とは大きく性格を異にしている。まず唐の文化が[14 国際]的であったのに対し、宋は国際環境の影響も受けて[15 民族]主義的性格を強めている。その担い手も没落していった[16 貴族]にかわり、[17 地主]や[18 官僚]といった[19 士大夫]と呼ばれる人々や、都市と経済の発展を背景にした[20 庶民]が中心となっていった。

とくに儒教では、これまでの[21 訓詁学]にかわって、儒教の精神を追求しようという動きが進み、南宋の[22 朱熹]がこれを大成、以後、東アジア各地において大きな影響を与えることになる。

歴史では司馬光が「[23 資治通鑑]」を叙述、文学では唐末以来の古文が中心となった。欧陽脩、蘇軾らが有名である。庶民的な歌謡文学である[24 詞]も流行した。美術では職業画家によって写実と色彩を重視して描かれた[25 院体]画と、士大夫らが主観的、理想主義的な立場から描いたよる水墨画である[26 文人]画の二派にわかれた。

宗教では[27 禅]宗、浄土宗といった仏教の普及とともに道教の革新がすすみ金では儒、仏、道が融合した[28 全真]教が成立した。

なお木版印刷法、[29 羅針盤]、火薬といったこの時期の発明はイスラムをへてヨーロッパに伝わり、大きな影響を与えた。

第4章 内陸アジアの変遷 1. 東西交通路

ユーラシア大陸を貫く3つの交通路が存在

1.[30 草原]の道…内陸アジア北部の草原地帯を東西に結ぶ[31 遊牧騎馬]民族の道
前6世紀 スキタイ人以後→[32 中国]やヨーロッパなどに侵入する

2.[33 オアシス]道([34 絹の道])…内陸アジア中央部の砂漠に点在するオアシス都市を結ぶ
[35 タリム]盆地南北などに多くの都市国家が形成され、[36 隊商]民が中継貿易を行う
とくにイラン系の[37 ソグド]商人が有名

3.[38 海]の道(陶磁の道)…南方海上を[39 船]で往来する

1世紀以降、[40 ギリシア]系商人により西方との貿易が形成

→8世紀イランや[41 アラブ]の[42 イスラーム]商人が進出

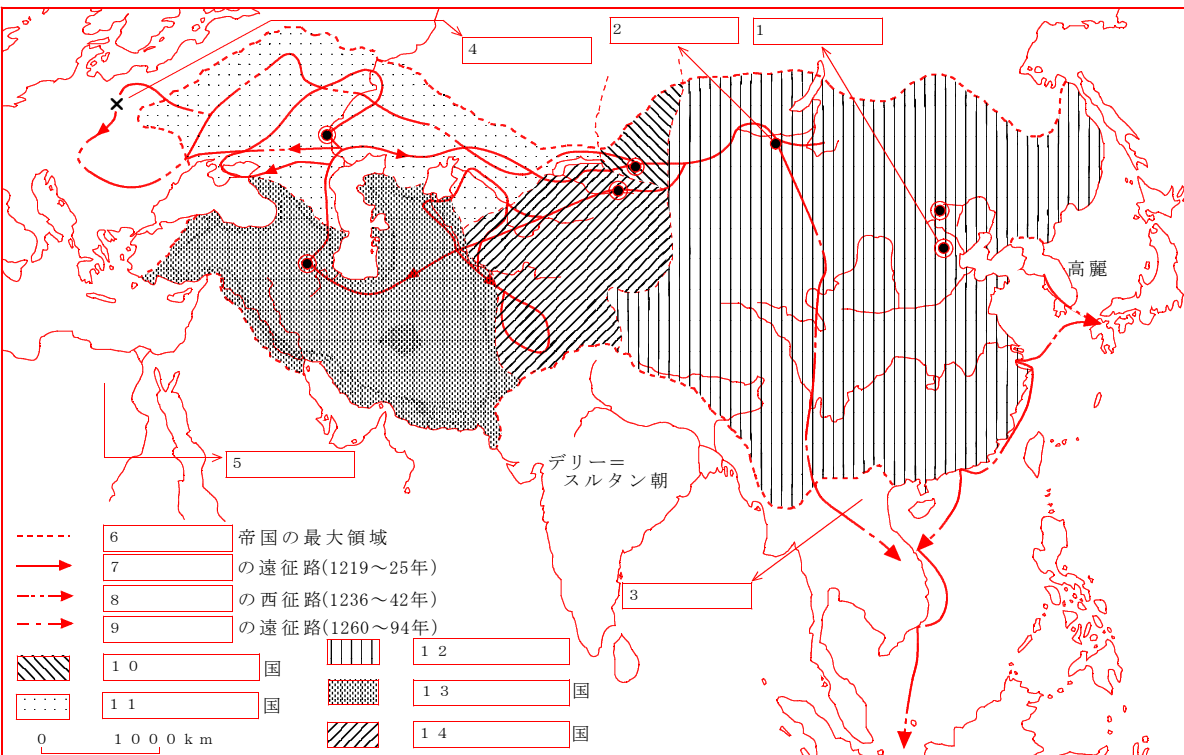
3. モンゴル民族の発展 a. モンゴルの大帝国

① 1206 モンゴル部のテムジン、モンゴル高原を統一→[43 フリルタイ] (部族会議)で大汗となり、[44 チンギス=ハン]の称を得る=[45 モンゴル]帝国の成立(首都カラコルム)

②モンゴル人→東西交易路確保のため、各地に遠征

・チンギス=ハン…[46 西夏]、ナイマン部、[47 ホラズム]朝を滅ぼし、大帝国を建設
(中央アジア) (西アジアのイスラム教国)

・[48 オゴタイ]=ハン… 1234年[49 金]を滅ぼし、華北を支配、高麗への攻撃開始



モンゴル帝国の最大領域

・[50 バトゥ]…ロシア占領→ヨーロッパ侵入=[51 ワール=シュタット]の戦い
→南ロシアに[52 キプチャク=ハン]国を建てる

・[53 フラグ]…[54 アッバース]朝を滅ぼす(1258)=バグダッド占領
(イスラム教の中心) →西アジアに[55 イル=ハン]国を建てる

・中央アジア→[56 チャガタイ]=ハン国、・西北モンゴル→オゴタイ=ハン国

③ 1260[57 フビライ]大汗となる→これに反対する人々が[58 ハイドゥ]の乱をおこす
→モンゴル帝国の分裂、決定的に